



技術士だより

(社) 日本技術士会九州支部・九州技術士センター 春季号<第55号>(平成15年3月15日発行)

巻 頭 言

技術士活動と社会貢献

九州支部副支部長 藤永 正弘 (建設・佐賀)

昨年佐賀新聞に、21世紀の地域おこしのテーマで樋渡啓祐氏(総務省大臣官房課長補佐)が書かれた行政と民間の役割分担についての記事があった。その中で、官と民、あるいは官、民それぞれの組織の適切な役割分担がこれまでの経済成長の大きな要因として挙げられるものの、現今その弊害が生じており、今後、行政と民間は一体となり行動する必要性を述べられている。

われわれ技術士に当てはめれば、行政・民間いずれの立場の技術者もこれまでの活動がそうであったのかなとも感じる。「いい知恵は交流から」の言葉は、技術士法改定の内容を見ても交流の橋渡しこそが広い視野を持つ技術士の役割ではないかと考える。これまでの技術者は、与えられた課題の中で応用能力を発揮して社会に貢献してきたが、与えられるものが少なくなっていく今、自らが作り出した事業で経済活動を行い社会に貢献する時代になってきていることを認識する必要がある。

佐賀地区はNPO法人を結成して約1年半を経過し、地域の技術者集団としての活路を探しつつ、種々の取り組みを行ってきた。主なものとして、約40年ぶりに復活した湧水を守り、活用する運動「縫ノ池」や科学技術の遺跡にスポットをあて、住民と協働活動する「神の島・四郎島大砲台場」等が今、成果をあげつつある。その中で、活動が評価されているものに共通していえる事は、活発な交流の中から①自らが思考・行動して、新しい事業を作り出す事。②住民自らが事業主体となる事。③委託者・受託者の立場ではなくそれぞれが両方の役割をこなす仕組みを作り出すこと。等が生まれてきたことである。

出発点は一会員の情報提供から始まったものであるが、この成果は佐賀県の技術者集団一人一人が価値観を共有し、積極的参画を行った結果であり、組織の成果はリーダーのみならず組織員全員の意識の共有化が必要なことを今感じ取っている。

このようなNPO活動は、技術士の金銭的な評価には程遠いが、広い視野・多くの知恵・応用そして、人として日本社会の一員としての存在価値を得るのに十分であり、自分の持つ技術が世の中に広く役に立つことこそ、楽しみであり、技術者冥利に尽きるものである。与えられたものの応用のみならず、自らの発想で提案し、目的を作り、新しい事業を作り出す楽しみは金銭に変えがたい心の豊かさを得るものである。

最後に、松下幸之助氏の語録に「未来はつくるもの生み出すもの」があるので紹介する。未来はこのようなものになるだろうと予測しても、必ずしもその通りになるものではない。好ましい未来を開くためには、将来のビジョンを描き、その実現に向かって、なすべきことを着実にしていかなければならない。未来は、予測すべきものではなく、みずから創造していくべきものである。

アールくんとシートくん

九州支部監事 黒江 浩（機械・福岡）

私がサラリーマンをやめて、自営業として独立して早今年で十年目です。五十七才で年金も無く、二人の子供を大学に出すのは大変でした。開業して初めて頂いた仕事が、福岡城南ロータリクラブからで、内容は問わず卓話を頼まれました。前回に話された方は、中村大学の先生で、納豆の話をされたそうです。集まりが一業種一人のメンバーなので、釣りの話でもよいと言われましたが、やはり仕事に関係のある話にしました。

演題は『窓際族と期待される管理者の相関関係について』その概要は次の様なものです。

（下図を参照しながらお読みください）

私がサラリーマンをしていた当時は、社内教育で“THE NEW MANAGERIAL GRID” 著書・ロバートRブレイク、ジェーンSムートンの本が使われていました。この本は現在も版を重ねベストセラーです。この理論はX軸に業績、Y軸に人間に対する関心をとっています。例えば（9-1）型人間は業績にのみ関心のある所謂仕事人間です。これに対し（1-9）型は人付き合いのみ重視の人間です。

（9-9）型は人間関係、仕事関係共に理想的モデルです。ところが当時私は、職場の業績は中味が目まぐるしく変わるので説明がつきにくいと考え、むしろ極座標の方が分かり易いのでは？と提案したら、面白い考え方をする人だと言われました。

私にもその後、窓際族について考える機会がありました。その時自分の理論をあてはめてみました。

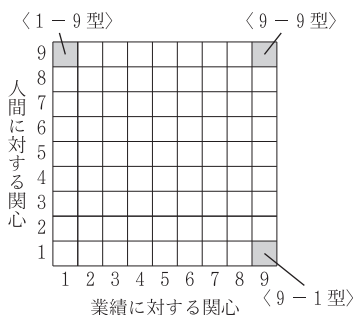


図1 グリッド理論

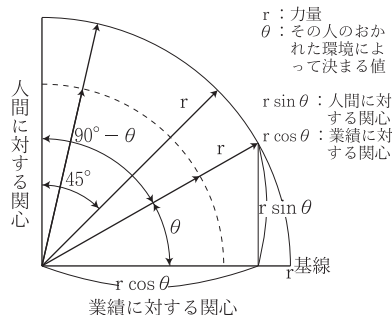


図2 極座標理論

極座標（ γ , θ ）の γ はその人の持つ力量を表わし、 θ はその人のおかれた環境によって決まる値です。つまり θ は人間に対する関心の度合により左右される値であり、（90度- θ ）は所属する職場の動機付けの度合と考えます。（90度- θ ）が大きい時は業績は大きくなり、人間に対する関心は小さくなります。グリッド理論の（9-1型）を表わします。 θ が90度に近づけば近づくほど業績に対する関心が小さい（1-9型）になります。 θ が45度の時業績と人間関係は均衡のとれた状態になります。

それで企業は社員を会社人間にするのでなく、社会生活も大事にする人間、即ち θ が45度の人間を育てるべきだと思いました。企業の業績は $\gamma \cos \theta$ で表されるから、 θ を小さくするよりも γ を大きくすることで業績は伸びると思います。グリッド理論の期待される管理者も、環境即ち、 θ の位置によっては窓際族に傾くこともあります。

企業は大なり小なりヒエラルキー職階構造なので、高年齢になるにつれ、出世組と出向組、そして窓際組に分れます。最後の組のパターンはある人によれば、発散型、内向型、納得型に分けています。これは γ が小さい方に傾いた場合です。しかし γ を伸ばそうと向上心の旺盛な人は環境の変化により期待される管理者にもなれると思います。同一人物を見る角度を色々変えて見てみてください。紙面の関係で十分な説明が出来ませんでしたが、結論として“人は環境により変動するものです。”

参考までに、ひょっとしたら（1-9型）と（9-1型）人間は本当は同一人物なのかもしれません。

昨今、人間不在で業績のみに関心の高い企業のニュースを見聞きするにつけ、実は企業の風土に γ を伸ばすことを忘れ、 θ を小さくすることに重点を置きすぎたのではないかと、私は思います。

平成14年度第5回理事会 概要報告

(社)日本技術士会 理事 小出 剛（農業・福岡）

平成15年度第5回理事会が平成15年1月22日に開催されました。今回は、8項目の審議事項、14項目の報告事項があり、約4時間半の会議となりました。つぎに主な事項を報告します。

審議事項

1. 会費の見直しについて

懸案であった会費の低廉化について、13年11月の理事会での財務委員会検討報告では、「安くする事は出来ない」ということであったが、「3万人会員・1万円会費をめざそう!」とのスローガンを私が提唱したことにより、ほぼ理事全員の賛同の下にシュミレーション等を行って、これまで再度低廉化の検討を行って来た。その結果として「今回は2千円の値下げしか出来ない。ただし今後なお検討を続けて毎年の低廉化に努力する」との財務委員長説明であった。

本件は来る3月の臨時総会に際し、(…会費値下げにより入会しやすい環境を醸成するために)第1号議案として提出したいとの事務局説明であった。しかし目的に対し余りにも減額が少ないことから、再び提案して「…今後毎年度、減額を検討する…」旨の付帯決議を理事会で行うことで承認された。

2. 平成15年度事業計画・収支予算について

本件も3月の臨時総会に提出される案件である。

15年度の特徴として、

- ①修習技術者支援活動の全国的展開とC P Dの機会均等化。
- ②技術士活用の拡大と処遇の向上を目指す。
- ③月刊技術士の抜本的改革と会員以外にも書店販売等を可能にする努力。
- ④I T活用等による経費節減。
- ⑤指定事業（試験・登録）機関としての一層の厳正

化と充実化。
が挙げられる。

また、15年度予算案については、一般事業＋C P Dで対前年比約9%増、指定事業で約16%減、合計では約9%減の1,335,763千円としている。

なお、指定事業については、受験者数の予測困難な部分があり大きな変動も予測される。

報告事項

1. 14年度第1次及び第2次試験結果について

事務局からの報告に関し、特に第1次試験の合格率が数パーセント台であり、第2次の総合技術監理部門筆記については、部門別に有利・不利が生じている。との大半の理事からの強い意見があった。

そこで(社)日本技術士会としては今までの他力本願から脱して、試験制度のあり方、試験委員の選定、試験問題の出し方等につき、理事会の中に特別委員会を設置して、問題点の分析と今後のあり方を検討し、その結果を文部科学省を通じ、科学技術・学術審議会技術士分科会に提唱し、抜本的な改善を計るべきであるとの結論に達した。

早速、政策委員会の中に特別委員会を設けることとした。

2. 技術部門試験問題の見直しについて

従来の19部門について大括り化を進める観点から、その準備段階として、技術士試験において技術体系別問題の出題が導入されようとしていた。昨年来技術士分科会で検討されて来たが、各部門の特質からして、短時間の検討による改正は困難との結論に達し、15年度以降についても従来通りの部門別出題とすることとなった。

なお、従来に加えて新たに原子力部門の新設が決定した。

平成14年度第3回支部長会議報告

九州支部副支部長 泉館 昭雄（電気電子・北九州）

2月7日(金)、平成14年度第3回支部長会議が、九州支部で行われた。佐藤会長、両副会長、各支部長、事務局長、事務局常務理事並びに当支部田中支部長、小出理事他関係者計21名が参加した。関係事項要旨を報告する。

会長挨拶要旨 技術士会、技術士の社会的重要性は一層増しており、技術士の新たな位置付けの検討を進めている。会員数は1万人を超える時代に入り、意見集約が難しくなってきた。内外の諸要請に的確に応えるべく、意思決定の迅速化にむけて、各支部との連携のありよう、事務局の機能・役割等見直す時期に来ている。昨年は、全国大会（岐阜）、日韓技術士会（仙台）が成功裡になされた。他方、総合技術監理試験問題出題ミス、試験関連諸案件がでており、技術士会として特別委員会を設置しこの課題対応に臨む。透明性、迅速性、効率性を踏まえた運営をする所存である。

議事 本部報告8件、本部関連4件、支部関連3件、CPD関連7件

〔1〕会費見直し：平成15年度から、現行年会費2万4千円を、2万2千円とする。入会しやすい環境を作る。会費値下げによる減収分2千万円は、支出抑制（*1）並びに会員増（*2）により対処する。

（*1）会員名簿印刷取りやめHOME PAGE掲載；△18百万円。通信費・慶弔費改定他；△9百万円。（*2）平成14年11月現在。会員数；会員9,875名、名誉会員560名、賛助会員261社、14年度1,000人増見込み。

〔2〕平成15年度事業計画：「わが国は科学技術創造立国としていきていかなければならず、研究者のみならず技術士等の優れた技術者を養成し、今まで以上にその活用を図ることが必要である」との、技術士審議会報告他に応えるべく事業展開する。修習技術者の研修支援、CPD支援、業務開発と関連システム構築、支部体制強化、APECエンジニア拡充、JABEEとの連携、試験実施機関・登録機関業務、事務局の充実等。

〔3〕平成14年度決算（見込）；収支合計53億7千

8百万円（前期、次期繰越含む）。九州支部交付金8百30万円。（一般、特別会計計）

〔4〕平成15年度役員選挙；定員は理事30名、監事3名。3月31日届出締め切り。6月16日開票作業。6月24日第45回定時総会結果報告。

〔5〕平成14年度技術士1次試験結果；適正・専門基礎の対受験者合格率は、前年比で著しく悪い。8.56%。

〔6〕平成14年度総合技術監理部門筆記試験試験結果；対受験者合格率が、選択科目によりかなり幅がある。受験者数100名以上で、27.23%から53.27%。

〔7〕前項5）、6）を踏まえ、特別委員会を作り、自主的検討をすすめる。

〔8〕平成15年度技術士試験；*一次試験は全て択一式。*総合技術監理部門は択一式を40問、試験時間を3時間30分にする。日程は①一次試験：平成15年10月13日（月・体育の日）②二次試験：総合技術監理部門の必須科目・平成15年8月2日（土）午後。総合技術監理部門を除く技術部門、および総合技術監理部門の選択科目・平成15年8月3日（日）。

〔9〕会員増強対策案（九州支部提案）；もっと魅力ある技術士会にむけて、技術士会として、CPD等の活性化とともに、技術士資格の職業法志向による社会的権限拡大と責任明示に務める。

〔10〕プロジェクト報告（九州支部）；IT化推進委員会を設置した。全会員を対象にネットワークを構築する。第一ステップはメール交換可能（H15・9）第二ステップはメール連絡（H16・3）、第三ステップは業務紹介システム、メールマガジン他（H16・9）。

〔11〕CPD活動報告（九州支部）；H13年度実績、会員の開催希望日時、集中講座実施状況、検討事項、演習方式の導入提案。

CPDについては、各支部から報告がなされた。

〔12〕支部状況報告；東北支部とは別に、東北技術士協議会があり、各県技術士協議会がある。本年4月を目途に東北支部に一元化する予定である。計1,600人規模。（H12）。

四国支部設立案は、審議中。会員活動の地理的利便性がポイントである。

「製品開発」・「工業的ニューバイオ」 「戦略的環境影響評価」・研修会

九州支部 技術士継続教育（CPD）委員長 内山 順治（林業・佐賀）

標記研修は1月25日（土曜）福岡商工会議所で10時から17時まで6時間、優れて多彩な3講師を招き、約120名が参加して行われた。

講師の顔ぶれと講義項目は以下の通り。

- 1）一柳（ひとつやなぎ）肇 氏（住友スリーエム（株）代表取締役社長）

議題 {A-6} 製品の開発、今を読む

「企業文化とイノベーション」

略歴 昭和38年東北大学金属工学科卒、住友電機工業入社、研究開発本部電気電子材料研究部長、大阪研究所次長、知的財産部長、住友電機工業技師長、平成11年現職

- 2）石崎 文彬（あやあき）氏（味の素・九州大学名誉教授）

議題 {A-4} 工業的ニューバイオ

「今世紀人類の課題とバイオテクノロジー」

略歴 昭和36年九州大学農芸化学科卒、味の素（株）入社、昭和46年農学博士、三重大学講師、九州大学教授（微生物工学）、筑波、大阪、名古屋大学等講師を併歴任

- 3）松本 亨（とおる）氏（北九州市立大学 国際環境工学部・助教授）

議題 {A-2} 戦略的環境影響評価

「地域開発とLCA」

略歴 平成2年九州大学水工土木科卒、大学院大気海洋環境システム修士課程終了

（株）野村総研、工博、平成10年九州大学大学院工学研究科助教授 平成11年現職

講義概要

1 「企業文化とイノベーション」

粘着テープ、交通標識、医療、化粧品用品の住友3Mは、年商2兆円（5万製品）世界60ヶ国37生産拠点、32研究所を営む、米国3M（ミネソタ・マイニング・マニファクチャリング、1925年創業）社の海外トップ企業（1960年創業、2001年グループ海外売上85.3億ドルの53%を売上、社員3,033名）である。

創業以来3Mを今日に導いた歴代企業家と技術者、社員が育て発展させて来た企業家精神とイノベーションを生み出す風土——企業文化と歴史を、具体的に興味深く語られた。

グローバルビジョン、3M経営理念、テクノロジーは会社全体の財産として派生分化、組み合わせ、失敗も利用し新製品を生み出す等、テクノロジーと独特の使い方、ジェネシスプログラム等、貴重な生きた講義であった。

2 「今世紀人類の課題とバイオテクノロジー」

石橋先生は微生物を使った工業技術開発研究に民間25年、大学15年間没頭され、澱粉から乳酸を製造する装置特許もお持ちで、（有）新世紀発酵研究所の所長として、大多忙の指導活躍を展開されている。

地球環境と世界食料確保対策を深く憂慮され、地球7億haの可耕地が養える人類生命は、せいぜい100億人が限界で、急いで対策を考える、若い技術者の結集を、熱情を込めて訴えられた。

また水俣病発生時点で生物濃縮を予想出来なかった人知の愚かさ、DNA解析は、ホルモンの働き等、宇宙摂理の深遠理解には程遠い現実、資源エネルギーの偏在集積と土壤微生物の窒素等物質循環能力の限界究明の緊急性を再認識するよう語られた。

地上で太陽エネルギーを利用して澱粉栄養有機物を合成する有力独立栄養生物サゴヤシ（澱粉24t／ha）は、栽培可能地に制約あり、幅広い解明を期待すること。

3 「戦略的環境影響評価、地域開発とLCA」

戦略的環境影響評価（strategic environmental assessment／SEA）は政策、計画、プログラム構想時点で、その内容が、国内と地域の社会、経済、環境に与える、影響を予測、分析、評価し、その手法は、社会的意思決定の判断材料として提供する活動であり、意思決定行為そのものではない。

わが国の政策、ダム、干拓、土地利用、エネルギー対策で、事業がスタートして、問題が顕在化し、内容変更、手戻り再検討する事例が多い原因を、SE

A制度の未整備にあるとの指摘は痛い。適用されている技術手法は、LCA・環境影響評価、LCA・CB分析等であり、実践には、住民参加と、プログラムの透明性が、要求される。世界の既導入国はアメリカ、EU、カナダ、オランダ、デンマーク、中

国等。

国の民主化が実効の条件。適用手法の入門、抱える課題等平易具体的に解説された。

次回4月26日(土曜)支部CPD集中研修は、環境を中心に開催を予定している。

年末恒例会員研修会 …一般教養の講演2題…

九州支部広報委員長 完戸 鶴(農業・福岡)

平成14年12月7日(土)に、福岡市の博多パークホテルで、九州支部、九州技術士センター共催で、年末恒例の会員研修会が開催され、CPD-A-11(一般共通課題教養部門)の講演が2題行われた。参加者は104名。

講演の一つは、12年のこの年末研修会で好評であった藤野武彦九州大学名誉教授の再登場をお願いした『「医食同源」を科学する』で、九州支部第五部会の企画。もう一つは野村ひとみ野村OFFICE主宰の「好感度の高い人前での話し方」であった。

いずれも、日頃の技術士の直接業務とは離れているけれども、技術士として生きるわれわれにとっては見逃すことができないポイントのお話で、とくに野村先生は、顔の表情、口の開閉、発音など、会場全員の実演を併せて指導してくださって、話を聴くだけでは止まらない納得の研修であった。

1.『医食同源』を科学する

九州大学名誉教授 藤野武彦先生

「医食同源」とは「食」(食べ物、食べること)は、「医」(クスリ、医学)と同格、同価値を持つということ。つまり「食」はクスリにもなれば毒にもなることを意味する。

6年前の調査によれば、福岡市の小、中、高校生の95%に「気力がない」「頭がぼんやりしている」「イライラする」などの心身症状があり、これらの症状と、インスタント食品、脂っこい食事、スナック菓子などの摂取量とは有意な正相関がみられた。今、子どもたちは疲れている。それも筋肉疲労ではなく、「脳疲労」というべき状態であって、飽食、物質充足という一見豊かに見える社会のなかで、逆に新たな受難の時代を迎えているといえる。

また環境ホルモンが脳を犯すことも判っていて、これから身を守るには食べ物に注意が大切である。

この「脳疲労」対策で重要なのが「医食同源」の科学であって、つぎがその骨子である。

- ①微生物による食品の機能高次元化：醸造酢の活用
- ②五感、とくに味覚の活性化：体によくて嫌いなこと(食べ物)は決してしない(食べない)。体に悪くても好きでたまらない、止められないことは禁止しない。体によくて好きなこと(食べ物)は一つでもとにかく始める(食べる)。
- ③食と農(脳)との新たな関係構築：有機農産物、自然食品を重視、活用する。

2. 好感度の高い人前での話し方

野村OFFICE教育コンサルタント 野村ひとみ先生

人前で何かを伝える時に、相手に受け入れてもらうために必要な4つのキーワード。

- ①外見(みだしなみ、表情)：第一印象が相手の判断の基礎である。自分の心は口許に現れる。いつも微笑みを絶やさない。“Key Wee”“Beauty”“Muru Pa”を10~20回ずつ声に出して繰り返す。微笑みを自然に誘う頬の鍛練になる。脳の活性化にもなる。
- ②話し方：言葉はハッキリ、メリハリをつけて、正確に。その基本は腹式呼吸。口を大きく開け、大きな声で、腹筋を使ってアクセントをつける。“よろしくお願いします”は“ろ”がポイント。
- ③態度：身体を言葉に合わせて使い分けて語りかけること。ボディランゲージが大切。また相手を見つめて話す。視線をそらすのは相手を無視することになる。首を縦に振る“あいづち”も上手な聞き方。相手が最も戸惑うのがノーリアクション。
- ④会話：「こころ」の通い合いである。言葉の意味をよく知って話すこと。言葉は人生を変えるほどの重みを持つ。また話題は常に豊富に。季節、努力、ニュース、旅、知人、家族、健康、趣味、衣、食、住といくらでもある。

福岡青年技術士ネットワーク&福岡シニア技術士ネットワーク

第1回公開講演会報告

石本 俊亮（建設・福岡）

真鍋 和義（水道・福岡）

はじめに

福岡地区には50才未満の会員で構成する「福岡青年技術士ネットワーク」(旧 Y C E 福岡)と主として50才代を会員とする「福岡シニア技術士ネットワーク」(旧 M C E 福岡)の二つの任意のグループがあり、それぞれに定例会を2ヶ月に1度開催しています。今回はじめて、合同での第1回公開講演会を平成14年12月7日に「アクロス福岡」で開催しました。九州支部から泉館副支部長を来賓に迎え、45名（青年26名、シニア17名、来賓1名、一般1名）の参加をいただきました。

1. 講演会開催までの経緯

これまでの活動は、それぞれに定例会を2ヶ月に1度開催してその時々科学技術の話題をとりあげ、会員の技術に対する幅を広げてきました。近年の科学技術に関する信頼を裏切る事件の続発や技術士そのものが限られた分野でしか認知されていない事実が存在し、対外的に情報を発信する姿勢が要望されるようになりました。そこで、従来、会員相互の技術研鑽の場として行なってきた定例会を、一般に開放し、情報交換するため、1年に一度の公開講演会を開催することにしました。

2. 第1回公開講演会の試み

第1回の公開講演会は、このような主旨をうけ、これまで技術士を中心に行なってきた定例会に、技術者の母体である大学関係者との討議の場を設けることとしました。

講演者として、日本における技術者認定制度に係わってこられた落合英俊教授（九州大学大学院工学研究院）に、『大学関係者にJABEEを聞く～技術者のキャリアパスと日本技術者教育認定機構』と題して、技術者として要求されている資質に関する講演を行なっていただきました。講演は次のような内容で行われました。

『技術の急速な進歩と経済活動のグローバル化が進む中で、わが国の技術基盤を支える質の高い技術

者を十分な数だけ養成、確保することが求められています。その一方で、国際化の進展に伴いわが国独自の終身雇用制の維持が困難になり、雇用の流動性、人の移動の自由化がますます加速されています。そのため、技術者は自分の能力を自ら向上させ、自らの雇用に値する価値を身につけておくことが切実な問題として顕在化しています。これからの技術者は、大学等の高等教育機関で技術者としての基礎教育を受け（IPD）、実務の修習を経て（QPD）、資格を取得し、継続的な能力・資質の向上を積み重ねて（CPD）、成長することが期待されます。このような時系列的なキャリアパスの中で、技術者は自らの雇用に値する価値を身に付けていくことになります。』

3. 第1回講演会を終えて

一般参加いただいた長崎大学の坂倉先生から、技術士に対して、次のような教育現場からの率直な意見がありました。

①技術士取得にどのようなメリットがあるか？②P Eと技術士どちらが優位か？③業務遂行に不利益を感じたことはあったか？④JABEE修了者に積極的な雇用はなされるか？⑤試験は他の資格に比べて難しいのか？

身近な大学関係者からの指摘です。このことに答えていくことが今後の活動の課題であるといえ、そのことが明らかになったことで、今回の講演会の目的が達せられたように思います。

おわりに

2つのグループの定例会をご案内します。「青年技術士ネット」は偶数月の最終水曜日に福ビル9F（福岡市天神）の会議室で、「シニア技術士ネット」は偶数月の最終木曜日に九州支部会議室にて開催しています。例会の内容は共に次のような構成です。

1分間スピーチ、ノウフウ（KNOW WHO、業歴を主体とした自己紹介）、ホットな話題（テーマを決めて研究的発表、又は外部講師による講演）とし、CPDの対象となる内容としています。

部会報告

第二部会現地見学研修会

御笠川浄化センター を見る

第二部会長 長野 紘一（建設・福岡）

C P D研修の一環として、第二部会の現地技術研修会を御笠川浄化センターで行いました。

御笠川処理場は新幹線の博多乗り入れに合せて、昭和50年5月に供用開始されており、平成14年3月末で日平均処理量300,000 m^3 、処理人口613,000人と、県内最大の処理能力を有しています。

本来、下水処理に関しては主に第四部会に属するものですが、当センターが力を入れている汚泥等の「下水排出物の有効利用」は、私達第二部会員にとっても興味あるものと考え、今回企画したものです。

研修場所：（財）福岡県下水道公社三笠川浄化センター（福岡市博多区那珂）

研修日時：平成14年11月12日（水）1時30分～4時
参加人員：27名

研修内容：下水公社理事長の東さん、センター所長の吉川さんを始め、関係課長さんに一連の下水処理のしくみを含めて、懇切に説明していただきました。

その中で、「下水道排出物の有効利用」に絞って報告致します。

1：消化ガスの有効利用

汚泥は安定化、減量化を図る目的で、消化槽の中で30日間加温消化されています。その時発生するメタンガスは、一部無効焼却されていますが、残り95%は次の目的に有効利用されています。

発生量 21,000 m^3 /日

有効利用量20,000 m^3 /日

消化槽加温用	5,200 m^3 /日
溶融処理用	9,500 m^3 /日
乾燥処理用	4,500 m^3 /日
冷暖房用	700 m^3 /日

2：下水処理水の有効利用

場内の施設に対する必要な水は、砂ろ過を行い積

極的に利用されています。

有効利用量15,000 m^3 /日

溶融・乾燥冷却用	8,900 m^3 /日
溶融排煙処理用	4,100 m^3 /日
その他	2,000 m^3 /日

現在、ボイラー用として約130 m^3 /日の水道水（ m^3 当り540円）が使用されていますが、これに代るべく、処理水による逆浸透膜を利用した実証実験を終り、その有用性、経済性もすでに確認されています。

この他、30,000 m^3 /日の処理水を利用して工業用水、水道水および河川維持用水を確保する、水利用高度化事業が完了しているそうです。

3：汚泥排出物の有効利用

本処理場での汚泥は、汚泥溶融炉及び汚泥乾燥機の二系列で処理されており、各々溶融スラグ、乾燥汚泥が排出されています。

特に後者の方式は、減圧されたタンクの中で汚泥を低温（約85℃）で、いわゆるテンプラ状にするものであり、全国の汚泥処理方式では第1号となっており、色々な面で注目を集めているそうです。

① 溶融スラグの有効利用

排出されたスラグは磁選分級にかけ、粒径の大・小及び鉄分含有量の多・少に分類して、有効利用が図られやすくなっています。

溶融スラグ発生量 月当り平均170 t

有効利用量 64 t / 月（粒径1 mm～1 cmで鉄分の少ないスラグは化粧ブロウ等に使用）

産廃処理量 106 t / 月（微細で鉄分の多いものはセメント原材料として処理）

尚、現在産廃処理しているスラグも、レジンコンクリートの骨材としての有効利用を検討中とのことでした。

② 乾燥汚泥の有効利用

乾燥汚泥発生量 月当り140 t

有効利用量 30 t / 月（コンポスト促進剤）

産廃処理 110 t / 月（焼却処分）

目下、電源開発㈱と協同でこの乾燥汚泥を火力発電の燃料として利用するため検討を行っており、平成15年度は連続運転による実証運転が開始されるそうです。

第一部会研修見学会

(株)九電工研究開発センター

第一部会長 野見山 益生（機械・福岡）

平成14年11月22日 参加14名

今回見学会を実施した（株）九電工研究開発センターは、平成11年に佐賀県鳥栖市に新社屋を完成された立派な建物で、研究棟、実証棟の2棟からなり、地上3階の最新設備を備えた研究施設であります。主要設備として省エネルギーシステム（太陽光発電、省エネ照明設備、デマンド制御、温潜熱蓄熱設備、天井冷輻射空調設備）又最新設備として、分散型高圧配電、高調波監視システム、温度監視、照明制御等の器機が配置されています。技術グループとして配電技術、電気技術、空調管技術グループの皆さんで、新製品の開発並びに測定、調査、解析、技術サポート等日夜業務に精励されて立派な成果を挙げておられるところであります。今回見学した開発品の中から以下順に説明します。

①活線作業用ロボット

本機は工事用車両に半自動地上操作型のロボットを搭載し、作業環境の改善を目指して、現場に導入するための工法、作業手順の確立、適用作業範囲の拡大及びロボット用作業工具の研究開発を実施されていきました。作業状況の写真参照のこと。

②天井開口ロボット

本機は天井ボードの開口作業に開発されたロボッ



活線作業用ロボット

トで、従来の高所作業による危険性をなくし、安全かつ正確な天井開口作業を可能にした画期的なものです。まさに建設現場での所謂3K（きつい、きけん、きたない）を解消したロボットで、照明器具取り付け用の開口、空調アネモ取り付け用開口の他、各種の天井開口に利用出来ます。

③新型温潜熱蓄熱システム

本装置は割安な夜間電力を利用し、暖房用の温熱を蓄える温潜熱蓄熱システムで、解放型タンクにパラフィンを蓄熱材とし、電熱促進材として炭素繊維を利用した複合蓄熱システムで、経済的で環境に優しいシステムであります。また氷と温水を同時に蓄熱するハイブリッド型の蓄熱槽も開発して設置されていました。（九州電力との共同研究開発）

④空調用フィルタ洗浄システム

これまで使い捨ての空調用フィルタを、超音波の利用でフィルタを傷つけることなく付着した汚れを除去し再生可能にした装置で、特徴としてリサイクル洗浄で産業廃棄物の削減ができ、新品と交換するより安価ですむこと、ISO14000推進で環境付加軽減に寄与できるシステムであります。

⑤総合ビル管理システム

電気・空調・給排水・照明等の総合ビル管理制御システムで、特徴として汎用品の使用により低価格の実現ができたこと、管理ネットワークで設備の増設、変更に対して対応が可能で、客先のLAN（Local Area Network）への接続が容易にできたこと、大容量の記憶媒体を利用してデータの共有が可能となり、更に独自のフルドネットワークの利用により配線の省力化を実現できた装置です。

⑥管自動加工システム

本システムは空気調和・衛生工学会振興賞、技術振興賞を受賞されたシステムで、管自動加工CIMは独自のCADとCAMとの2つの機能から構成されています。特徴として専門知識に乏しいオペレータでも熟練者レベルの図面を自動作図できること、自動加工システム（CAM）では加工工程の監視制御まで行うことができ、材料の節約・自動化・省力化・低コストが実現できたこと等、多くの利点を有しております。

この他環境関連として水質管理検査システム等の設備も見学させていただき、幅広い分野の研究開発に努力されていることを伺い深く感銘致しました。

第五部会技術研修会

地域水産業の発展を目指して

ー福岡県水産海洋センター研修見学の記ー

第五部会幹事 讃井 友規（水産・福岡）

小春日和に恵まれた本年1月17日、福岡市今津にある福岡県水産海洋センターに於て、日本技術士会九州支部第五部会、CPDによる現地研修会が実施されました。

参加者は第五部会員で現地栽培漁業に従事している方、水産土木に経験のある方、水産に幼少より多大の関心のある方、現在水産関連問題に直面されている方、県外からも馳せ参ぜられた方、何れも博識多才の集いでありました。

御承知の様に200カイリ時代の到来で、日本の水産業の環境は大きく変化しました。世界に飛躍していた日本の水産業は縮小を余儀なくされ、漁獲量は減少していくと共に輸入は急拡大して来ました。また、漁業従事者は高齢化が進み、水産業が生き残る道は「自分の海の資源を守り育て、将来に涉って安定供給する体制をつくることにある」と云われております。

同センターは、福岡県の外海の筑前海、内海の豊前海、内湾性の有明海及び内水面に各々研究所を有し、現場半分研究半分为基本として担当する水域の漁業や環境に応じて研究技術開発が行われています。

1例を挙げれば、栽培漁業ではトラフグ、ナマコ等の種苗生産の効率化、クルマエビの放流効果研究。最近では小型アワビの商品化が目前に迫っている成果があります。又養殖では「ノリ」のDNA解析による品種技術研究、魚病対策など、その他資源管理研究では、漁場を赤潮や貝毒から守る環境保全研究等です。

その他、公的機関としての水産情報提供漁況予測、研究成果の普及、漁業者の育成と、漁村づくりも行われております。

今回の主たる技術研修は数ある成果のうちから2つを選定しました。

1つは牧場型浅海漁場整備手法として、主としてマダイの幼魚（4cm～10cm）を、音響給餌ブイを設置し音波に馴致して保育礁周辺に滞留させ、大きく

育てて漁獲する方法であります。この方法に依れば給餌効率もよく経済効果が大きいとの事でありました。

他の1つは有明海の漁業生産高の90%を占めると云われるノリについて、「葉体からの純粋なDNAの抽出と精製法」を取り上げました。この難問題はDNAの抽出にノリのネバネバ物質（多糖類）をDNAと同じ性質のために分離しなければならないことで、これには市販のDNA抽出精製キットを利用することによってでき、そしてAFLP法と云う解析法で高感度再現性をもたらししているとの事でした。

ノリのDNA解析では、その遺伝的な多様性を系統解析し品種の改良をもたらす大きな効果があると云われております。これに依り高品質適性品質が生み出されて行くことが期待されるからです。

ちなみに人間のDNAとの対比をミニ辞典で調べました。人の遺伝子本体DNAは細胞の「核」と、細胞の小器官のひとつ「ミトコンドリア」の中にもあります。核のDNAは両親から受けつぐが、ミトコンドリアDNAは原則として母親に由来すると云われています。この性質を利用すれば親子鑑定や先祖の調査が可能となると云われています。

海藻には、核DNA、ミトコンドリアDNA、葉緑体DNAがあり、センターではこの3種を含むDNAの解析を行っておられます。

余談ですが、北朝鮮に拉致され死亡した横田めぐみさんの娘とされていた「キムヘギョンさん15才」はミトコンドリアDNA解析により親子と判明しました。人類の祖先は17万年前の「アフリカ」の女性だと云う「ミトコンドリアイブ」説もその分析に基づくものと云われています。

講習修了後、センター資料館で「海と生きる。海と暮らす」のビデオを見て、県漁民のたくましい活



第五部会技術研修会

動と「ガンバットルタイ」の強い言葉、それにセンターの若き研究技術者の熱意と努力を感じながら、また、この地域の水産業が伝統と先端技術を利用して新しい局面を拓いていかれ、将来に向けて新たに発展することを期待しながら、センターを後にしました。

第三部会工場見学会

技術と安全

第三部会長 和田 洋二（金属・北九州）

スペースシャトル・コロンビア号事故は、いまさらながら、世の中に「絶対安全」というのは存在しない、ということ改めて私たちに教えてくれたのではない。この事故を契機に、有人宇宙飛行の是非が問われるとことになると考えられるが、アメリカは彼らなりの考え方によってこの障害を乗り越えるであろうし、日本ではまた別の受け止め方で論じられることになると思われる。いずれにしても技術と安全について考え直してみる猶予を私たちは与えられたわけだ。

あの劇的な1969年のアポロ11号人類初の月面着陸以来、数多くの有人宇宙飛行が行われ、1986年のチャレンジャー号打ち上げ失敗を最後に（旧ソビエトにおける事故を除き）大きな致命的事故は起こらなかった。最近では、日本人宇宙飛行士が搭乗するケースを除けば、スペースシャトルがいつ打ち上げられたのかについてもよほどこの分野に関心が深い人でないと知らないのではない。当たり前のように打ち上げられ、当然のごとく帰還するというパターンが繰り返され、いつしか安全神話を生んだのかもしれない。

宇宙開発に限らず、先端科学・技術分野、例えば

胚性幹細胞（ES細胞）を利用した再生医療が将来的に現実のものとなりつつあり、私たちは好むと好まざるとにかかわらず、これらとのかかわりをもつことになると思われる。初めは「ブタの肝細胞を利用した人工臓器なんて、何だか気味が悪い」と思っていたのに、いつしか私たちがつぶさには知らないところでライフサイエンス／バイオテクノロジーの革新が起き、当然のことになる時代が来ることだってありえる。しかし、そこに落とし穴があり、初期にはらった細心の注意、慎重さがいつしか薄れ、成果への功名心に駆りたてられた当事者が人体に及ぼす安全性の検証において手抜きを犯す、といったことが起きる可能性だって考えられる。

バイオテクノロジーと言っても様々な応用分野があるが、私たち第三部会では、比較的身近な農業分野における実用化の現状について研修する機会を得たので、技術と安全を考える上でご紹介したい。

2月8日、化学部門／里一男氏のはからいで田川市にある中村産業(株)バイオ研究所を訪問し、研究施設および“微生物を活用した土壌改良剤”の製造工場の見学をさせていただいた。ゲストルームにおいて、「微生物の有効利用による農業や環境分野での商品開発」という研究コンセプトに基づいて行われている取り組み内容について、里氏から熱心な説明をお聞きし、出席の会員の方々からは、各々の立場から微生物の採取方法、微生物のもつ抗菌性特性確認試験における課題など次々と質問が出され、活発な議論が行われた。

自然界に存在する微生物を農業分野で利用するという話を聞く中で、人工的に作り出された化学物質が人類の生活環境を脅かす要因となった現在の地球環境問題とあわせて考えたとき、自然にあるものをそのあるがままの特性を活かすという原点に立ち返った研究こそが、人体にとって安全な技術のありかたにつながるのではないかと考えた。

気軽に原稿をお送りください

「技術士だより」から、技術士のみなさんの気持ち溢れて、生き活きとした息吹がほどばしるようにしたいと思います。それで「声の広場」の原稿をお送りください。例えば、

①なぜ技術士になったのか。

②技術士になって判ったこと（よかった点、足りない点、意外だったこと。etc.）

③技術士としてこんな仕事をしたい。

④いま、仕事のうでで悩んでいること。

この他にいろいろあると思います。お気軽に書いてみてください。原稿は800～900字程度。送りは支部事務局。FAXかE-mailで、どうぞ。

地域活動

北九州

北九州地区技術士会の活動状況

地区代表幹事 是永 逸夫（総技監・機械）

北九州地区技術士会は引続き活発に活動を進めていますが、平成14年下期の注記すべき行事は10月18、19日に北九州地区で開催された「第8回西日本技術士研究・業績発表年次大会」です。

大会テーマを「循環型社会の形成に取組む技術士の活動」とし、前日に北九州学術研究都市・エコタウン見学会と懇親会を実施しました。

翌日、学研都市内で北九州市立大浅岡教授の記念講演の後、3分科会に分かれて21題の研究業績発表が行なわれました。広い産業分野からの発表に対して活発な意見交換が行なわれました。

北九州地区からは7題もの発表がなされました。

130人を越す出席者で盛会裏に終える事が出来ましたが、大部分が九州から中・四国までであり、関西からの出席者は発表者1名だけであった事が残念でした。

発表内容は講演概要集をご参照下さい。

月例会では9月度まで、総合技術監理部門学習会を実施し、それなりの成果と結束を得る事が出来ました。

現在は受験時に作成した体験論文を集めている段階であり、次の学習会活動に活用すべく準備中です。

技術報告は新入会者の増加と、年配者の卓話を導入した事もあり、毎月3題の講演を行なう事になりました。

一般の技術報告の他に、近隣地区の先生方の発表も多くなり、技術士補の方も技術報告にも加わるようになっていきます。産業界出身の技術士が多いという地域的な特徴のお陰で、広範囲の技術分野の貴重な技術に接する事が出来ます。

若年技術士の出席増の理由はこの辺にあると自負しています。更に活発にして行く事を念じており、研究業績を年報の形に纏める事を検討中です。

最後になりますが、前号に“感謝・感激・感動の旅”と題して寄稿された平岡輝夫先生（建設）が、1月度の月例会にいつもの様に上機嫌で出席された日に急逝されたのは甚だ残念です。心からご冥福をお祈り致します。

長 崎

長崎県技術士会役員改選

地区代表幹事 山口 和登（応用理学）

平成15年2月7日（金）に長崎県技術士会の臨時総会ならびに新年研修会が諫早市内のホテルで28名の出席者のもと開催された。臨時総会の議題は①役員改選 ②CPD運営委員会の設立 ③その他である。

県技術士会の役員は、会長、支部地区代表幹事、支部地区幹事、センター理事2名、会計監事2名、顧問3名の計10名で構成されている。この内、来年度は支部、センターの役員改選のため、支部、センターへの届出の関係上6月の県技術士会通常総会に先立ち来年度の役員選出を行った。

その結果、地区代表幹事に現センター理事の大橋義美氏、空席となるセンター理事に永濱伸也氏の、

また現センター理事の永田至孝技術士が長期海外主張のため交替を申出られた関係上、私こと山口和登がセンター理事を務める事と決した。

この結果、来年度の新役員は、会長 犬束洋志（留任）、地区代表幹事 大橋義美（新任）、地区幹事兼副会長 平原宏志（留任）、センター理事 永濱伸也（新任）、山口和登（新任）、監事 本田圭介（留任）、松竹英雄（留任）、顧問 黒瀬正行（留任）、野々下金（留任）、福岡辰義（留任）の10氏となった。

次にCPDの運営をより効果的に行う為、CPD運営委員会を5名で発足する事が決まり、委員決定を行った。

研修会は17時から18時までの1時間のCPDとして、講師にソニーファシリティマネジメント（株）の高山能博技術士（機械）が「電子機器製造工場における環境保全の取り組み」のテーマで講演された。

臨時総会、研修会、そして懇親会も成功裏に終了し、閉会となった。

熊 本

技術士活動の強化について

地区代表幹事 林 博昭（農業）

熊本地区における平成14年度下半期の技術士活動は、上半期に続いて組織の強化に時間を費やした。

振り返ると、熊本地区における技術士活動は、（社）日本技術士会に所属するプロジェクトチーム熊本技術センターと九州支部熊本地区、さらに、（社）日本技術士会に入っていない技術士や未登録の技術士がいるため、任意団体として熊本県技術士会が結成されていた。

これらは、活動を始めてから15年になるが、最近、社会環境の変化に伴って新しい社会ニーズが増え、それに対応するために特定非営利活動法－NPO法－が制定され、従来から行われてきたボランティア活動を法人化して政策的に支援し、広く一般に広めようというものである。

このような経緯から、有明海異変の問題に対応するため、有明海・八代海沿岸地域を対象にNPO法人みらい有明・不知火が平成14年8月に、また、熊本県技術士会を法人化するため、県内技術士を対象にNPO法人熊本技術士の会が同年11月に、それぞれ設立総会を開き活動に入った。

このように、技術士に関わる組織が4つもできたため、これらの連携を図る必要があることから、設立された経緯と会費、事業目的、役割り等を明確にし、自分の置かれている職場環境、活動環境と照らし合わせて、どの組織に所属したらよいか判断して、それぞれに活動していかなければならない。その上で、技術士、さらには技術者の地位の向上と、環境の保全、安全性の確保、生活基盤の整備、そして国際交流といった社会貢献を果たしていく必要がある。

したがって、これから一層地域に密着した技術士活動が出来るが、それを支部活動にも反映させて、技術士活動をより活性化させていかなければならないと考える。

宮 崎

「大学との連携による 社会人技術者のための実験講義」

でぐち ちかし
出口 近士（建設）

宮崎大学工学部土木環境工学科は平成13年度に文部科学省から「社会人ブラッシュアップ教育推進プロジェクト－技術者資格取得を指向した地方における技術者継続教育の需要調査と試行実験－」の助成を受けました。その一環として、“技術士資格取得のための試行実験講義”（建設系・環境系・農業系・林業系・総合技術管理：11部門、講師：技術士18名＋教授等10名）を平成14年3月16日に共同実施し、福岡県、大分県や鹿児島県からも含めて、延べ約300名の参加がありました。

その後この実験講義を受けて、工学部教官と宮崎県技術士会会員有志（延べ20名）が、平成14年5月から平成15年1月まで計12回にわたり“技術士資格取得のための自主学習ゼミ”を開催し、延べ約250名

の参加がありました。

またメーリングリスト（ML）も開設され、受験生相互の情報交換やアドバイザーからの活発・熱烈的なコメントやアドバイスが交わされました。

このような活動もあり、受講者の中から約140名以上の方が技術士第二次試験を受験したものと推察されます。そのうち60名以上の方が筆記試験に合格され、技術者のレベルアップに有意義な社会実験であったとの評価を頂きました。

このような産官学共同による技術士資格取得を通じた人的資源開発活動が、大学の地域連携の一モデルとして、そして地方における官庁、市町村、民間会社の枠を越えた技術者の技術力アップの一手段として、さらには自己実現インセンティブとして機能することを体感できました。

平成15年度から技術士第一次試験の受験が義務化されるために対応の変化が必要ですが、この試行実験講義と自主ゼミを通じて形成された人的ネットワークを活かして今後の活動につなげたいと考えています。（宮崎大学土木環境工学科助教授）

I

復活した湧水「縫ノ池」

(住民と行政連携・交流のサポート)

大串 正 (建設・佐賀)



1. 湧水復活の背景

上の写真は表題の縫ノ池です。池に写った木々や建物、写真の上半分は晴れた空、下半分は青い透明感の水面を持つ池で、この周囲の広々とした環境にマッチした池の素晴らしい景観は、心が癒されるとともに、やしろや境内に農村の憩いと活力を思い起こさせる里山の風景です。

この縫ノ池は佐賀県の白石平野西端にあります。白石平野の西端、杵島山の東山麓には数カ所の湧水群があり、昭和30年代頃まで、灌漑用水、生活用水として利用されるとともに、地元住民の憩いの場、交流の場でもありました。

時代の経過の中で、白石平野地先の有明海湾奥部は、江戸時代から地元藩主による干拓がおこなわれ、戦後は国営事業として取り組まれ陸地面積を拡大し、一大農業生産地を作り出してきました。

ところが、昭和30年代前半には、それまで経験したことのない干ばつが相次ぎ、もともと、水源後背地の乏しい地域でもあり、農業用水を確保するための方策として深井戸が設けられ、さらには生活用水としての水道用水も深井戸からの取水に依存するようになりました。

そのため、杵島山東山麓の湧水群はすべて枯渇し、その後は農業用水・水道用水の100%近くを地下水に依存し、さらには土地改変も加わり湧水池跡も殆ど

姿を変えていきました。

井戸による地下水の汲み上げは一方で、地盤沈下を招き、家屋の傾斜や杭基礎構造物の抜け上がり、道路の激しい凹凸などの現象も生じました。

このような地盤沈下や地下水依存地域において、平成13年4月に水道水を佐賀西部広域水道企業団からの取水に切り替え、深井戸の取水を停止したところ、湧水群の一つであった「縫ノ池」に自噴が見られ、40年ぶりの湧水の復活となりました。

2. 復活した湧水と住民活動

湧水復活直後から地元住民の一部に保存・整備へ向けた動きがあり、行政・関係機関への陳情等も含めた努力も進展が見られず、1年を経過した平成14年6月に佐賀地区CPD研修会で話題が取り上げられ、それが契機で地区技術士活動の一環として住民活動に積極的に協力することになりました。

同時に地元で生活環境の改善と地域活性化に向かって「縫ノ池保存会」の結成後、神社のお祭り・池の清掃・湧水の水質分析等、多くの地元民の参加による積極的な活動が行われて始めて、行政・関係機関の協力も見られ始めました。

さらに湧水の利活用や「縫ノ池」の景観を利用した茶会行事など多方面の協力を得た住民活動が広がられています。

3. 住民と行政の連携・交流サポート

今、里山再生が叫ばれております。里山の定義はさておき、「縫ノ池」周辺は杵島山の麓で自然を生かして、祖先が田畑や山麓の社会生活環境に密接に係わった里山の一部であるに違いないと思います。

人間の営みの中で変化してきた里山ではありますが、我々技術者が、湧水の復活を契機に新しい時代の里山のあり方を住民とともに考え、行動すること



は自然環境の復元と循環型社会の再生など公益の推進と豊かな社会作りに貢献することになり、ひいては住民参加型による社会資本整備手法を示唆するのではないかと感じております。

II

怠惰な技術士、レッドカード！

井内 祥人（林業：鹿児島）

今年も花粉症の時期がやってきた。この時期になると、テレビ、新聞などのマスメディアは、一斉に「花粉症」シリーズになる。テレビでは連日、スギ花粉が風により飛び散る様子を放送しており、スギを悪者にすることがマスメディアの使命であるかのごとく印象を、私はいつも抱いており、不愉快である。

このようなマスコミの作為的行為は、国民に誤った知識(?)、認識を与えていると思っているのは私だけではない。

花粉症は40年前、アメリカからの帰化植物ブタクサによるものが初めて発見され、現在は約40種類の樹木、草木が「花粉症」原因植物としてわかっている。勿論、スギもその一種である。

スギは昔から日本の代表的な樹木として植林されてきた。そして、スギに囲まれて生活している山村の人達には、ほとんど「花粉症」は見受けられない。「花粉症、花粉症」と騒いでいるのは、都会の人間たちだけなのである。

花粉症は、スギ、ヒノキ、ブタクサなどの花粉がないと発症しないのであるが、原因として、ディーゼル車の排気ガス、大気汚染、食生活の洋式化などが言われてきたが、近年、医学的な研究で、「花粉症急増の原因は日本人の寄生虫感染が減少していることである。」ということが主原因として証明され、外国の学会でも同様な結論が発表され定説となっている。つまり、花粉症が発生する以前の約40年前の日本人の寄生虫感染率は80%を越えていたが、現

在は10%程度となっている。寄生虫感染率の減少と反比例して、花粉症やアトピーが、急激に増えてきている。日本人の近年の除菌、無菌、無農薬等の異常な「超清潔志向」が病気に対する抵抗力を急激に弱めていることになってきている。

ここで、技術士の役目について考えてみよう。

つまり、技術士の役目というのは、科学技術に関する正確な情報、知識を国民に提供し、国民に間違った判断をさせないということである。そして、そのためには技術士は日々、勉強、研究などの研鑽活動が必要となるはずである。

しかし、現実にはどうだろう。今や（再）就職活動のツールの一つとして「技術士資格」を取得が目的になっており、技術士として、科学技術で社会にどのように貢献できるかを考えて行動していない人がいかに多いことか。そこで、苦肉の策のCPD研修の始まりである。つまり技術士能力の低下である。しかも、CPD研修記録を他人（日本技術士会）で証明してもらわなければならないという現実。

技術士法44条にいう、「信用失墜行為の禁止」。つまり、技術士は、自分のとっている行動（年50時間以上の自己研修等）については、全て責任を持たねばならないはずである。この条文は自ら葬り去ってしまったのだろうか。

技術士個人もさることながら、その研修（記録）をチェックする日本技術士会、そして信用されていない技術士、何ともおそまつな構図ができあがっている。これが日本の技術士の実態であろう。

科学技術は世の中に役立ってこそ価値があるのであって、自分だけの技術は、単なるマスターベーションにすぎない。そして、技術士たる者、自分の技術、知見を常に世間に公表し、批判を受けながら、技術士資質を高めてゆく姿勢と自覚が必要である。そのようなこともせず日々、怠惰に過ごし、技術士資格を取得してから、一遍の論文発表もせず、また一言の口頭発表さえもしていない技術士は、すぐ「技術士」資格を返上すべきである。まじめに取り組んでいる多くの技術士の人達に迷惑である。そのような人達が淘汰されれば、日本の技術士集団は真に活性化するのではないかとと思っている。

おめでとうございます 平成14年度技術士第一次、第二次試験合格者(福岡会場)

★第一次試験 (平成15年 1月15日発表)

機械部門

吉良忠暢	渡邊和典	内田一成	西脇弘	山下清春
首藤久宣	永野智	棚町修一	寺地弘幸	藤田浩一
石川敬史	辻田彩乃	武林和彦	柴田浩史	吉永辰雄
中馬崇宏	藤木剛	柴山修一	武本英治	右田隆雄
山元崇	砂川淳	古谷健	小西徹	有田治勝
井崎伸二	神田大	野正博之	伊藤杉太郎	江口勝行
秋廣直紀	餅原実	橋本芳章	井上貴義	津田敏行
向島仁	片山克弘	境睦人	稲垣浩通	萬運
堀田源治	徳永秀一郎	山本良	宮崎正和	小倉驍
辻和芳	阪本隆広	鶴田芳昭	田沼和夫	阿部聖
	田中大气	浜川浩一	橋内和文	出口近士

電気・電子部門

川越典子	木越健二	崎本繁治	平原淳次	持田拓児
城戸拓也	城戸和寿	是枝伸	帆足雄二	武田浩卓
小松原雅彦	田渕幹修	山本和幸	高力健次郎	青木正延
金澤知寛	中島康彦	青龍靖則	宮野和幸	山下昌木
田中俊博	矢野信一	中村健	原康彦	佐藤信吾
稲津慎	後藤昭彦	宮田英樹	松崎明	鐘廣喜
田村精作	赤松伸	奥武之	石毛立也	田口和久
山本勝公	川本恭朗	松崎宏文	山川純雄	富川康志
鹿島脩一	中茂義晶	西頼和之	白石均	鈴木正美
宮本浩二	能見真人	南里勝	春田博文	梅原卓也
	倉吉一盛	子上住夫	後藤裕司	堺美智雄

化学部門

大東昇	河野幸次	岡崎光央	北村晴夫	山崎裕之
佐倉克彦	服部豊	副島勇造	松本義信	桑原洋一
	小笠原哲也	國分恒彰	齊藤健男	富士川洋一

金属部門

近江洋	河野安博	斎田護	池田好克	森二郎	古田元治
安西敏雄	安東幹夫	原田政太	黒木修身	前田秀喜	佐藤和夫
田所裕	和田賢哉	岩上憲一	中原和彦	山本和雄	久間俊明
	岩切康二	市原浩司	松浦和久	太田義信	太田達雄
	藤本拓男	前田剛志	大丸隆	花田俊弘	石井栄造

建設部門

久保裕康	横大路桂吾	藤島義久		
植木和宏	宗澤研郎	林秀行		
前田安德	宮路義一	佐藤秀輝		
中村聖三	田島亮爾	内山省三		
湊敬文	今辻勉	二宮雅彦		
松迫靖彦	坂本賢次	満留康裕		
山田耕嗣	門脇哲郎	小原和憲		
池田和博	溝田敏夫	江崎史啓		

平成14年度技術士第一次試験結果

	全 国	福 岡
受験申込者数 (人)	3,548	34,132
受験者数 (人)	2,439	23,979
合格者数 (人)	351	3,582
対申込者合格率 (%)	9.9	10.5
対受験者合格率 (%)	14.4	15.0

市原 仁志	春口 勝幸	西村 寛信	伊藤 和彦	<u>情報工学部門</u>	<u>生物工学部門</u>
大隈 徹浩	井上 康志	村上 和浩	小山 徹	佐伯 孝夫	小川 暢祐
佐土原 裕一	田尻 雅則	松井 正樹	岩下 任氏	三谷 彰男	新岡 洋二
伊神 光男	恒松 泉	古川 好徳	田ノ上 春雄	坂本 力	古賀 敏昭
中川 裕	平川 孝	真鍋 和義	佐藤 隆	竹崎 直人	吉田 洋一
有村 実弘		衛藤 郁	大塚 祐治	梶原 宏一郎	木戴 雅之
寺田 利博	<u>水道部門</u>	中原 和典	有馬 純彦		森 智行
竹内 研	牧島 昌博	津田 伸夫	上尾 清光	<u>応用理学部門</u>	江藤 良樹
田中 克	高橋 憲義		木原 泰信	佐藤 良	
東岡 耕嗣	武村 泰幸	<u>衛生工学部門</u>	白浜 隆寛	牧野 隆吾	<u>環境部門</u>
福山 博親	淵之上 勲	太田 智博	宮崎 浩三	鋸谷 和志	明智 純一
石井 宏幸	川下 敏雄	古保里 俊夫	早野 美雄	長崎 義弘	首藤 俊祐
菰方 弘樹	金子 紀文	西村 稔	後藤 祐一郎	河合 政岐	新町 一郎
川窪 一郎	友永 利光	土田 大輔	富宿 一隆	山下 好幸	中原 良一
釜下 英巳	道岡 良一	高木 啓太	野原 一秀	上妻 睦男	田邊 勝
木許 卓郎	藤野 満	柴田 健次郎	阿多 寛	遠座 昭	下津 義博
築城 永	小川 哲夫	中村 昌広	伊納 昭彦	柴田 佳久	千々布 義朗
松永 哲哉	齊田 虎生	藤村 洋人	菊池 秀城	是石 康則	
山下 伸二	安田 繁			山口 和登	
吉住 透	森野 文隆	<u>農業部門</u>	<u>林業部門</u>	尾上 秀司	
宮崎 辰彦	矢代 まゆみ	津田 伸志	倉本 巖	中尾 俊二	
福元 秀一郎	澁谷 恒晴	泉 拓史	内藤 大樹	田口 修	
幸 徹	大木 正也	佐藤 正章	松崎 淳夫	岩内 明子	
坂本 文男	山田 紀之	後藤 健一郎	<u>水産部門</u>	大賀 英生	
谷下 公一	井 重男	大久保 進	冷川 久敏	西川 直志	
谷川 一智	手島 健治	宇藤山 隆		西園 幸久	
内田 智昭	寺師 政廣	住吉 和彦	<u>経営工学部門</u>	明代 達也	
永渕 正夫	岸田 徳康	手塚 国夫	田中 穰治	塚原 俊一	
見原 英二	大西 雅紀	小深田 茂		中川 英朗	

★第二次試験（総合技術監理部門を除く19部門）（平成15年3月13日発表）

<u>機械部門</u>	喜多村 治雄	及び無機化学	(金属加工)	(土質及び基礎)	三浦 慶宣
(加工及び		製品)	今西 幸平	佐田 英一郎	田口 修
加工機)	<u>電気・電子部門</u>	正寶 敏貴	神谷 欣宏	今西 宏美	鷹嶋 俊之
山根 龍男	(送電配変電)	(高分子製品)	上田 精心	阿部 聖	金田 孝治
(原動機)	堀 賢一郎	川辺 正直		板垣 龍夫	谷口 慎一
篠田 克彦	(電気応用)		<u>資源工学部門</u>	高岡 宏治	上野 裕次
(建設、鉱山、	坪井 克剛	<u>金属部品</u>	(金属及び	重信 光男	井上 秀治
荷役及び運搬	(情報通信)	(鉄鋼生産シス	非金属鉱業)	吉田 卓生	荒木 英明
機械)	久木田 英治	テム)	池田 和博	梶山 春樹	木村 泰三
清水 將之		下村 健介	草田 隆人	藤田 和幸	緒方 一
(産業機械)	<u>化学部門</u>	(金属材料)		大山 忠宏	善 功企
紙 昌弘	(セラミックス	松永 榮八郎	<u>建設部門</u>	上杉 吉史	(鋼構造及び

平成14年度技術士第二次試験結果
〔総合技術監理部門以外の19部門〕

	全 国	福 岡
受験申込者数 (人)	50,129	4,404
受験者数 (人)	30,725	2,494
合格者数 (人)	5,562	406
対申込者合格率 (%)	11.0	9.2
対受験者合格率 (%)	18.1	16.2

コンクリート)
富川 康志
西村 一朗
元山 寿
奥田 正裕
水田 一郎
松尾 栄治
有角 明
後藤 将明
藤木 剛
中尾 好幸
岡部 成行
柵田 浩光
濱本 満帆
中野 智文
大谷 睦彦
劉 貴位
園田 東二
上妻 正典
小原 英徳
三浦 泰博
石田 政治
荒木 和哉
福田 哲郎
富田 尚文
能勢 哲郎
小高 直
山崎 幸治
赤井 知司
小川 宗正
内山 執樹
井上 高志
市宮 久之
高橋 光紀
松永 昭吾
大沢 信一
阪上 精希
谷口 森男
山ノ口 正和
(都市及び
地方計画)

大森 正人
浦田 健司
日高 治
黒木 三郎
甲斐 猛
芳西 孝行
大沢 満
武林 晃司
田中 奈美
日高 淳三
西村 博史
宮崎 隆一
松本 博文
小城 貴浩
沼地 英二
黒木 正行
都瑠 淳一
沼川 滋彦
松崎 淳
大杉 哲哉
山本 和幸
三好 健太郎
土橋 末八
澁江 章子
前田 武
清水 邦彦
岩切 靖考
寺原 誠一
(河川、砂防
及び海岸)

安藤 日出男
坂田 洋一
知識 博美
永渕 正夫
堀 一裕
竹下 哲也
藤原 直樹
豊村 靖彦
稲森 太
塚原 俊一
布田 昌司
松本 邦男
(港湾及び空港)
陣内 茂
大岡 達也
村永 努
國友 七郎
横小路 孝裕
高瀬 和彦
上野 信行
塚本 義孝
長野 敏之
篠原 謙一
(電力土木)
笹田 俊治
藤畑 定生
椋 真太
梶田 卓嗣
野崎 明人
(道路)
井上 陽夫
榎原 正純
人見 信男
松尾 竜也
岡本 泰典
児玉 広文
永野 広
深見 一男
中村 和典
関谷 富彦
城戸 和彦
高田 澄夫
橋元 健二
矢ヶ部 秀美

柳田 誠二
大成 和明
石田 健
益崎 秀往
青木 正延
岩内 明子
木野 史子
馴松 義昭
喜安 和秀
岩永 徹
次郎丸 敬太
多田 悟士
野々下 博司
山下 密広
國師 栄八郎
甲斐 重隆
渡邊 義男
宮部 静夫
川島 健嗣
白石 文夫
藤本 拓男
内田 智昭
長尾 康博
圖師 雄一
内村 正樹
田口 哲
梅下 利幸
亀田 俊二
石田 正志
遠藤 俊宏
吉武 範幸
大堂 仲二
菅原 賢司
阿佐 真一
(鉄道)

甲斐 総治郎
前川 聡幸
伊達 和寛
稲田 剛
(トンネル)
古川 好徳
中藤 英樹
北村 敬司
財津 勝
足立 宏美
荻田 雅弘
松藤 孝弥
有吉 功
三浦 智哉
高田 民夫
石田 智朗
(施工計画、施工
設備及び積算)
廣田 正和
木田 正弘
内賀嶋 道隆
門脇 哲郎
原 佳伯
加藤 友紀
高橋 隆一
内藤 明
仲野 幸男
太田 成一
吉田 光博
中牟田 憲吾
八田 直治
西本 治男
草野 哲郎
牛谷 逸朗
市原 浩司

松尾 良一
持永 守
本木 正之
竹中 玄
中西 猛
時枝 直人
弘中 知之
白坂 正三
内田 靖夫
大坪 幸一
浅井 悟
伊藤 信政
衛藤 郁
近沢 孝雄
田平 祐二
古後 英幸
森松 一典
大島 栄茂
竹田 誠司
水元 元秀
辰己 明
中島 幸一
円田 博文
(建設環境)
阿比留 健司
山内 鋭司
田口 和久
山崎 裕之
野上 和孝
真次 寛
植木 和宏
馬場崎 正博
大矢 広志
鈴木 正美

有田 治	西 保幸	澁谷 恒晴	大久保 伸彦	平 敏治	竹丸 巖
松井 幸太郎	渡邊 純子	中村 伸二	山本 忠志	後田 靖広	
軸丸 恒宏	中村 星朗		中村 昇	大久保 秀一	<u>情報工学部門</u>
播磨 さおり	小西 徹	<u>衛生工学部門</u>	伊藤 純仁	塚島 正文	(情報システム)
橋内 和文		(廃棄物処理)	宮地 聡哉	松尾 洋志	佐伯 孝夫
羽田 史郎	<u>水道部門</u>	小野 義広	吉村 和洋	藏重 裕夫	
松岡 定和	(水道及び	日比野 満	塚本 孝雄	(地域農業	<u>応用理学部門</u>
田口 俊一	工業用水道)	小林 淳志	塩福 輝雄	開発計画)	(地質)
児玉 滋彦	安部 久光	関戸 知雄	大串 和紀	内村 研一	松本 一英
内山 省三	青木 正史	(空調和施設)	松井 隆昌		松本 謙二
義経 俊二	(下水道)	牟田口 幸生	寿福 洋二	<u>林業部門</u>	大島 郁夫
千々布 義朗	鈴木 祥広	笠原 修	吉村 喜一郎	(林業)	矢野 健二
松田 龍朋	高橋 憲義	(建築環境施設)	寺山 暢夫	池田 典昭	後藤 繁俊
平原 淳次	金子 憲治	小西 満	原 憲義	山元 秀記	箴島 聖二
神山 博志	中島 巧	伊藤 誠一	瀧戸 淑章	(森林土木)	蚊爪 康典
長尾 孝俊	有松 成人	(廃棄物管理	小倉 裕二	倉本 巖	坊村 欣一
藤原 秀志	安原 秀夫	計画)	馬庭 一夫	佐藤 義高	
岡田 敏治	亀田 正好	田口 誠也	宇藤山 隆	内田 陽二	<u>環境部門</u>
末松 正直	稗田 清信		牛草 寛志	飯干 利廣	(環境保全計画)
星田 和彦	南 靖彦	<u>農業部門</u>	首藤 美満	吉澤 知昭	上田 恒久
永矢 貴之	小川 哲夫	(農業土木)	赤嶺 彰	小松 正廣	藤川 孝作
富士川 洋一	辛山 孝広	山口 昭光	小深田 茂	奥山 博	田中 健次郎
松雪 清人	中原 公治	宮下 敦典	井上 等	大久保 剛	東岡 耕嗣
杉尾 哲	松尾 新次郎	水野 宏二	藤澤 孝	平郡 雄二	藤原 稔
木下 牧	藤井 泰之	井上 公一	西 元孝	(林産)	久間 公一
西村 寛信	今西 正樹	永野 和範	井元 幸司	中島 豊	(環境測定)
山口 将一	川崎 互	吉木 久人	寺本 孝浩		中田 憲一
宮島 泰志	樺沢 敬視	林 静敬	平山 正己	<u>水産部門</u>	甲斐田 照明
山田 智通	福山 清和	花房 寶	箱川 健二	(漁業及び	(自然環境保全)
松浦 元哉	藤本 忠孝	後藤 健一郎	金木 秀明	増養殖)	岩間 正康

★第二次試験（総合技術監理部門）（平成15年3月13日発表）

<u>機械部門</u>	増永 秀人	北村 敬司	岩上 憲一	柴山 修一	コンクリート)
(鉄道車両	廣崎 豊伸	平原 宏志	今田 尊徳	本田 信孝	廣田 武聖
及び自動車)	宮脇 優	田島 恒美	井口 公一	前田 秀喜	山根 誠一
小林 健治	(電気応用)	日野 健次	武本 英治	橋口 邦男	亀澤 靖
(建設、鉱山、	溝田 安彦	松崎 隆彦	齋藤 芳徳	田嶋 俊郎	豊福 俊泰
荷役及び運搬	(表面技術)	合馬 幹人	八百山 孝	白石 隆俊	清永 定光
機械)	田所 裕	中尾 好幸	奥 英雄	櫛間 乗徳	住居 孝紀
尾中 健一	<u>建設部門</u>	渡邊 利夫	坂田 和生	松永 道雄	巢山 藤明
	(土質及び基礎)	新納 格	植本 松弘	三浦 哲彦	千々岩 浩巳
<u>電気・電子部門</u>		瀬原 洋一	高田 誠	高橋 芳友	津崎 博美
(発送配変電)	水野 宏二	永嶋 洋政	篠原 覚二	(鋼構造及び	竹岡 伸一

平成14年度技術士第二次試験結果

〔総合技術監理部門〕

	全 国	福 岡
受験申込者数 (人)	13,405	1,122
受験者数 (人)	10,397	844
合格者数 (人)	3,516	282
対申込者合格率 (%)	26.2	25.1
対受験者合格率 (%)	33.8	33.4

平野 巖 渡 邊 浩 司 井 上 和 敏
 稲 森 宏 育 (河川、砂防 岡 部 成 光
 常 松 修 一 及び海岸) 武 田 悦 男
 橋 本 秀 成 竹 下 昌 次 甲 斐 良 徳
 桑 野 信 治 松 本 和 信 (道路) 加 賀 泰 夫
 川 崎 巧 富 士 川 洋 一 見 原 英 二
 伊 藤 整 一 平 野 宗 夫 有 吉 正 敏
 船 本 憲 治 高 木 辰 治 亀 崎 直 隆
 武 林 和 彦 松 石 忠 俊 榎 谷 秀 秋
 江 崎 守 古 賀 省 三 中 野 道 男
 薄 達 哉 平 松 信 幸 佐 竹 芳 郎
 御手洗 泰文 久 保 朝 雄 阿 部 文 彦
 (都市及び 太 田 達 雄 岡 崎 光 央
 地方計画) 松 尾 寧 文 木 村 恒 雄
 松 崎 和 夫 原 田 民 司 郎 藤 本 昌 弘
 田 沼 和 夫 恒 松 道 信 春 田 博 文
 山 本 浩 介 加 治 屋 義 信 明 石 弘 二
 川 原 行 夫 石 井 宏 幸 狩 集 克 己
 棚 町 修 一 栗 野 修 司 小 路 智
 末 松 正 直 岡 田 豊 藤 島 義 久
 柴 田 貴 徳 藤 原 秀 志 栄 徳 洋 平
 御代川 亨 三 浦 昶 軸 丸 英 顕
 藤 内 誠 一 森 田 昭 廣 志 賀 浩 二
 加 来 雄 一 福 元 秀 一 郎 堤 康 博
 出 口 近 士 (港湾及び空港) 東 正 美
 牧 敦 司 荒 木 英 二 吉 永 辰 雄
 有 田 治 津 嶋 了 小 林 秀 典
 山 城 俊 昭 山 下 昌 木 原 田 政 太
 兒 玉 隆 昌 寺 田 利 博 杉 本 正 二
 佐々木 實 吉 永 高 敏 久 家 悟
 波 木 健 一 坂 本 文 男 田 中 克
 深 沢 朗 加 藤 博 敏 松 岡 隆
 辻 弘 見 長 友 文 昭 藤 尾 保 幸
 松 永 光 司 上 野 典 彦 (鉄道) 兵 藤 公 顕
 松 尾 眞 治 樋 高 浩 一 津 高 守
 羽生 誠一郎 井 上 篤 江 村 康 博
 手 島 健 司 (電力土木) 森 山 隆 徳
 内 山 省 三 稲 元 勝 彦 (トンネル) 吉 田 直 紹
 中 俣 敏 朗 中 島 忍 杉 元 裕 紀
 佐土原 裕一 田 代 幸 英 多 寶 徹
 岡 部 礼 一 佐 野 信 博 (施工計画、施工 吉 弘 英 光
 畠 山 美 久 高 向 正 典 設 備 及 び 積 算) 戸 次 眞 一
 春 口 勝 幸 坂 口 信 夫

(建設環境)

寺 尾 康 成 友 納 敏
 鳥 井 秀 章 竹 元 重 博 瓜 生 滋
 田 野 慎 一 郎 林 秀 行
 塩 月 隆 久 服 部 誠 二 郎 衛 生 工 学 部 門
 江 藤 光 博 山 川 武 春 (廃棄物処理)
 中 山 義 彦 楠 木 和 之 竹 田 雅 文
 原 田 正 則 山 本 美 子
 坂 井 繁 雄 込 山 美 光 農 業 部 門
 任 田 栄 夫 田 中 克 則 (農業土木)
 姫 野 庄 市 遠 藤 慎 一 山 内 悦 郎
 井 上 雅 寛 河 崎 信 子 山 下 博
 田 中 昭 二 川 口 芳 人 下 瀬 喜 久 雄
 久 米 田 一 澤 田 芳 夫 川 尻 悟
 久 我 一 郎 南 英 明 土 井 良 一
 松 村 弘 己 東 岡 耕 嗣 桑 畑 俊 郎
 佐 藤 礼 治 緒 方 建 二 大 久 保 堤
 関 口 勇 藤 本 栄 治
 野 添 秀 昭 宮 崎 浩 三
 酒 井 良 長 野 義 次
 田 中 公 博 竹 中 英 和
 桑 原 照 男 案 浦 徳 治 後 藤 祐 一 郎
 松 野 恭 二 高 橋 広 志 和 田 修 二
 松 本 章 厚 地 学 岩 田 博 文
 山 崎 裕 之 藤 野 恭 裕 野 原 一 秀
 松 岡 俊 治 中 原 和 典 藤 村 幹 治
 山 下 文 章 (下水道) 藏 重 裕 夫
 平 井 一 三 高 木 誠 (地域農業開発 計 画)
 藤 井 憲 彦 石 丸 敏 勝 中 山 信 春
 中 村 拓 三 松 田 研 志 (農村環境)
 内 田 克 巳 西 村 寛 信 上 野 幸 一
 福 吉 眞 一 加 藤 晃 一
 佐 土 平 馨 又 吉 康 治 林 業 部 門
 佐 藤 貴 美 斉 須 和 夫 (森林土木)
 吉 弘 英 光 義 経 俊 二 松 崎 淳 夫
 戸 次 眞 一 野 上 和 孝 平 郡 雄 二

水産部門 (漁業及び 増養殖)	経営工学部門 (工場計画)	黒木 英浩 (プロジェクト・エ ンジニアリング)	(情報数理及び 知識処理)	森 与志信 永川 勝久 柴田 佳久 松雪 清人	西園 幸久 林 信雄 塚原 俊一
山本 浩	佐藤 充重 大久保 英明	田中 厚一	盛本 健太郎		
(水産土木)	(生産管理)		応用理学部門	山下 好幸	
大岡 達也	坂口 洋一郎	情報工学	(物理及び化学)	堀口 信也	
冷川 久敏	(品質管理)	(情報システム)	池田 忠夫	井上 博	
	向江 宗利	梶原 宏一郎	(地質)	樗木 政昭	

会員ニュース

☆(社)日本技術士会(九州支部) 入会

(地区)	(区分)	(氏名)	(部門)	(上段:連絡先/下段:勤務先) (連絡先と勤務先が同じ場合、連絡先のみ)	
北九州	正会員	杉山 嘉則	建設	〒820-0011 飯塚市柏の森525-1-401 (株)麻生リニューアル技術事業部診断工事グループ	☎・FAX(0948)29-3577 ☎(092)624-1304 FAX(092)624-1309
福岡	正会員	檜原 昭雄	建設総合技術管理	〒818-0118 太宰府市石坂3-25-17 日本総合コンサルタント(株)九州支店	☎・FAX(092)922-6886 ☎(092)413-0866 FAX(092)413-0901
北九州	正会員	田島 忠彦	水道	〒805-0026 北九州市八幡東区東山1-6-25 (株)北九州市建設コンサルタント協会	☎・FAX(093)651-3044 ☎(093)561-8283 FAX(093)651-3044
宮崎	正会員	春口 勝幸	建設	〒880-2113 宮崎市小松北町6-7 宮崎県土木部高速道対策局	☎・FAX(0985)47-3386 ☎・FAX(0985)47-3386
福岡	正会員	西頼 和之	建設	〒814-0123 福岡市城南区长尾1-13-1ダイヤパレス長尾桜通り403号 (株)ニチボー大分支店	☎・FAX(092)873-7887 ☎(097)551-1240 FAX(097)552-5620
福岡	準会員	遠山 景正	建設	〒818-0061 筑紫野市紫1-4-34ステーションプラザ二日市210号 (株)千代田コンサルタント九州支店	☎・FAX(092)921-6850 ☎(092)752-1601 FAX(092)752-1631

☆九州技術士センター入会

佐賀	正会員	南里 勝	建設	〒840-0852 佐賀市中折町8-11 佐賀県水産漁港課	☎・FAX(0952)22-5082 ☎(0952)25-7144 FAX(0952)25-7274
福岡	正会員	鹿島 脩一	電気電子	〒818-0068 筑紫野市大字石崎37-25 西日本技術開発(株)	☎(092)924-0670 ☎(092)781-1239 FAX(092)781-3743
福岡	正会員	尾長谷孝之	建設	〒818-0133 太宰府市坂本3-24-24-502 西日本技術開発(株)	☎(092)921-4484 ☎(092)781-1239 FAX(092)781-3743
福岡	正会員	中川 裕	建設	〒819-0013 福岡市西区愛宕浜2-1-13-608 西日本技術開発(株)	☎(092)881-8657 ☎(092)781-1177 FAX(092)781-9599
福岡	正会員	大石 博之	応用理学	〒811-1211 筑紫郡那珂川町今光1-16-1 西日本技術開発(株)	☎(092)953-6862 ☎(092)781-1454 FAX(092)781-6748
熊本	正会員	佐々木正恕	農業	〒862-8005 熊本市龍田陳内4-1-57 九州農政局大野川上流農業水利事業所	☎(096)339-7121 ☎(0974)63-0681
宮崎	正会員	村上 司	建設	〒880-0021 宮崎市清水3-3-20-211 (株)NTTネオメイト南九州	☎(090)2510-6144 ☎(0985)23-8530 FAX(0985)55-1040
北九州	正会員	川嵐 清	電気電子	〒820-0046 飯塚市大日寺611-9 千代田興産(株)	☎(0948)24-2174 ☎(092)533-2983 FAX(092)533-2999
福岡	正会員	矢野 寛幸	応用理学	〒811-1323 福岡市南区弥永2-27-2リバーサイドエムA-201 (株)九州地質コンサルタント	☎(092)575-2015 ☎(092)586-0260 FAX(092)586-0075
北九州	正会員	古川 信之	化学	〒803-0836 北九州市小倉北区中井4-6-14-707 新日鉄化学(株)総合研究所	☎・FAX(093)562-9192 ☎(093)884-1666

☆会員連絡先（住所）および勤務先変更

（地区）	（区分）	（氏名）	（部門）（変更）	
福岡	正会員	坂井 和典	建設	連：〒840-0054 佐賀市水ヶ江 6-3-13 ☎(0952)28-6234
福岡	正会員	岡部 礼一	建設	動：〒839-0809 久留米市東合川 7-10-11 平和測量設計㈱ ☎(0942)45-7820 FAX(0942)45-8155
福岡	正会員	松崎 明	建設	動：〒880-0303 福岡市西区姪浜町33-1 パシフィックコンサルタンツ㈱九州本社 ☎(092)885-5008 FAX(092)885-5004
沖縄	正会員	安田 征三	電気電子	動：〒901-2131 浦添市牧港 5-2-1 沖電設㈱ ☎(098)879-9031 FAX(098)879-2822
福岡	正会員	田中 秀男	建設	動：〒810-0001 福岡市中央区長浜 1-1-35 西日本開発コンサルタント㈱ ☎(092)724-8040 FAX(092)724-8046
福岡	正会員	増永 秀人	電気電子	連：〒836-0836 大牟田市左古町 2-10
大分	正会員	梶原宏一郎	情報工学	連：〒870-0134 大分市公園通 2-1-8 ☎・FAX(097)524-3977
福岡	正会員	四反田勝久	水産	連：〒838-0103 小郡市三国ヶ丘 3-117 ☎(0942)75-0734
大分	正会員	松井日出海	建設	動：〒879-0311 宇佐市大字森山1813-5 ダイエーコンサルタント㈱ ☎(0978)32-0584 FAX(0978)33-1884
福岡	正会員	無津呂雄二	水道	動：〒810-0076 福岡市中央区荒津 2-2-1 福岡市中部水処理センター ☎(092)721-4991 FAX(092)732-7374
福岡	正会員	荒川 直樹	建設	動：〒876-0813 佐伯市長島町 4-14-14 九州地方整備局佐伯工事事務所 ☎(0972)22-1880 FAX(0972)23-2799
福岡	正会員	畠中新二郎	情報工学	動：〒812-0013 福岡市博多区博多駅東 2-13-24 ㈱九州産業技術センター ☎(092)411-7394 FAX(092)472-6688
福岡	正会員	近藤 義廣	建設	連：〒811-1343 福岡市南区和田 1-21-43長野ハイッ302号 ☎(092)541-8058
福岡	正会員	橋詰 順一	建設	連：〒819-0002 福岡市西区姪浜駅南 1-8-5-1101 ☎(092)882-5638
福岡	正会員	斉田 護	建設	動：〒812-0031 福岡市博多区沖浜12-1-5 F 五洋建設㈱福岡営業所 ☎(092)282-0242
福岡	正会員	中島 克人	建設	動：〒810-0013 福岡市中央区大宮 2-18ダイヤパレスグランシティ平尾502号
大分	正会員	田代 末信	建設	動：〒870-1101 大分市敷戸北町 7-4 ドービー建設工業㈱九州支店内
宮崎	正会員	川原 伸孝	建設	連：〒815-0041 福岡市南区野間大池 1-2-1
鹿児島	準会員	有川 幸秀	建設	連：〒890-0024 鹿児島市明和 4-9-7 ☎・FAX(099)283-6855
福岡	準会員	山本横太郎	建設	連：〒812-0069 福岡市東区郷口町 2-10 YGM箱松21-301
福岡	準会員	松原 文明	建設	連：〒816-0824 春日市小倉 7丁目114
福岡	正会員	古川 博	建設	動：〒819-0004 福岡市西区愛宕南 1丁目5-22 古川建築研究所 ☎(092)882-4388 FAX(092)882-4470
鹿児島	正会員	末吉 康一	建設	連：〒892-0816 鹿児島市山下町15-27 ☎(099)222-8700 FAX(099)222-6100 動：〒891-0103 鹿児島市皇徳寺台 4-3-5-301 ㈱萩原技研
佐賀	正会員	宮本 晴邦	建設	動：〒812-0013 福岡市博多区博多駅東 2-10-7 国土交通省九州地方整備局道路工事課長 ☎(092)471-6331 FAX(092)476-3517

★平成15年度技術士第二次試験

総合技術監理部門の受験について

受付期間：平成15年4月1日（火）～11日（金）

（土、日曜日は除く）郵送の場合は、締め切り日の
消印のあるものまで有効

筆記試験：平成15年8月2日（土）必須科目

平成15年8月3日（日）選択科目

受験資格：技術士第一次試験に合格し、所定の業務
経歴を持つ者（既に技術士の資格を持つ者でも第一
次試験に合格しないと受験できません）

試験一部免除：既に技術士の資格を持つ者には、選
択科目の試験が免除されます。

詳細は支部ホームページを。（URLは奥付記載）

御協力いただいている 賛 助 会 員

.....〔福岡〕.....
 日本総合コンサルタント(株)九州支店
 (株)建設環境研究所
 (株)唯設計事務所
 日本建設コンサルタント(株)九州支店
 中央開発(株)九州事業部
 (株)ダイヤコンサルタント 西日本支社
 福岡支店
 日本工営(株)福岡支店
 昭和地下工業(株)
 第一復建(株)
 (株)松本組
 (株)エスケイエンジニアリング
 (株)東亜コンサルタント
 (株)福山コンサルタント
 (株)東京建設コンサルタント 九州支店
 東亜建設技術(株)
 精巧エンジニアリング(株)福岡支店
 東邦地下工機(株)
 大成ジオテック(株)
 富洋設計(株)九州支社
 九州建設コンサルタント(株)福岡支店
 日本海洋コンサルタント(株)
 九州事務所
 (株)サンコンサル
 (株)橋梁コンサルタント 福岡支社
 (株)アイ・エヌ・エー九州支社
 (株)九州地質コンサルタント
 (株)タイヨー設計
 日鉄鉱山コンサルタント(株)九州支店
 (株)大建
 (株)エム・ケー・コンサルタント
 (株)エス・ピー・エンジニアリング
 新地研工業(株)
 (株)カミナガ
 (株)構造技術センター
 平和測量設計(株)
 (株)高崎総合コンサルタント
 西日本コトラクト(株)
 西鉄シーイーコンサルタント(株)
 町田電気管理・技術士事務所
 日本地研(株)
 第一設計(株)
 九州環境技術研究所
 西日本技術開発(株)
 (株)富士ピーエス
 日本技術開発(株)

大和コンサル(株)
 アジアエン지니어リング(株)
〔北九州〕.....
 日本航測(株)
 大村技術士事務所
 (株)九州設計事務所
 九和設計(株)
 (株)押川測量設計
 (株)都市開発コンサルタント
 (株)松尾設計
 (株)酒見設計
 (株)太平設計
 冷牟田設計コンサルタント(株)
 山九(株)鉄鋼事業本部鉄鋼技術部
 (株)安川電機
 (株)中村測建事務所
 環境テクノス(株)
〔佐賀〕.....
 (株)精工コンサルタント
 新九州測量設計(株)
 西日本総合コンサルタント(株)
 日本建設技術(株)
 (株)九州構造設計
 新栄地研(株)
 九州技術開発(株)
〔長崎〕.....
 大栄開発(株)
 (株)実光測量設計
 西日本菱重興産(株)
 大洋技研(株)
 (株)親和テクノ
 扇精光(株)
 (株)新栄設計事務所
〔熊本〕.....
 (株)九州開発エンジニアリング
 アジアプランニング(株)
〔大分〕.....
 佐伯調査測量設計(株)
 松本技術コンサルタント(株)
 協同エンジニアリング(株)
 (株)日建コンサルタント
 東亜コンサルタント(株)
 九州特殊土木(株)
 大洋測量設計(株)
 九州建設コンサルタント(株)
 西日本コンサルタント(株)
 南武コンサルタント(株)

東洋測量設計(株)
 九建設計(株)
 日進コンサルタント(株)
 ダイエーコンサルタント(株)
〔宮崎〕.....
 (株)弓場水工コンサルタント
 (株)ロードリバーコンサルタント
 (株)ケイディエム
 (株)親協
 南日本総合コンサルタント(株)
 (株)宮崎産業開発
 (株)西田技術開発コンサルタント
 (有)福島測量設計調査事務所
 九州工営(株)
 (有)久保測量設計コンサルタント
 正栄技術コンサルタント(株)
 (株)東九州コンサルタント
 (有)日豊測量設計事務所
 日測コンサルタント(株)
 (株)水理設計
 (株)ダイワコンサルタント
 (株)白浜測量設計
 (株)杉田測量設計コンサルタント
 (株)ジオセンター M
 南興測量設計(株)
 (株)アップス
 (有)カツキ技術士事務所
 (株)共同技術コンサルタント
 (株)国土開発コンサルタント
 (株)外山測量設計コンサルタント
 (株)宮崎水道コンサルタント
 (株)都城技建コンサルタント
 (株)宮崎まちづくり計画
 (株)第一テクノコンサルタンツ
〔鹿児島〕.....
 中央テクノ(株)
 朝日開発コンサルタンツ(株)
 (株)久永コンサルタント
 コアツ工業(株)
 大協(株)
 新和技術コンサルタント(株)
 (株)中村測量設計
 (株)日峰測地
 (株)大紀造園設計事務所
 (株)建設技術コンサルタンツ

第3回CPD（A部門）の集中研修

第3回の集中研修が下記の通りが開かれます。

テーマ：A部門：環境問題特集

日時：平成15年4月26日（土）10：00～16：00

会場：福岡商工会議所（福岡市博多区博多駅前）

研修内容と講師（CPD認定6単位）：

①循環型社会形成に向けた地域政策・社会システ

ム・社会

北九州市環境局環境産業政策室長（部長）

技術士（総合技術監理、建設） 垣迫 裕俊氏

②廃棄物処理の現状と環境管理システム

松浦技術士事務所

技術士（環境）・環境カウンセラー 松浦 茂雄氏

③（交渉中）

参加費： 3,000円（当日徴収）

申込み：4月15日（火）まで、九州支部宛FAX。

（広報委）

会誌“技術士”最近の主要目次

平成14年12月号

- ・巻頭言 基礎研究と技術／栗屋容子
- ・環境経営の動向／池田豊
- ・貴重な資源・オカラの有効利用／酒井重男
- ・地中採熱ヒートポンプシステムに関する中華人民共和国の視察／小原伸哉
- ・第12回国際女性技術者・科学者会議に参加して／東山セツ子
- ・野球の監督－総合技術監理とは／浜野武富

平成15年1月号

- ・巻頭言 プロフェッショナルエンジニアの創造性と国際競争力に期待／細田博之
- ・地球環境問題と技術者の役割／佐藤清
- ・最近の潮流「南北対立と“水”の海外援助」について／鈴木忠男
- ・安全問題の社会科学的考察／本田尚士
- ・水素エネルギーシステムの構築をめざした取り組み／阿部真丈

平成15年2月号

- ・巻頭言 リスク倫理学の創設を／近藤徹
- ・ミニ特集【防災特別委員会の発足と防災活動】
技術士会の社会貢献に向けて－防災委員会の設立経緯と活動方針／大島久
平常時の防災に向けた委員会活動／下垣光太郎
技術士会防災専門家の積極的活用／山口豊
平常時に準備する緊急時マニュアルについて／下垣光太郎・山口豊
大規模地震災害時の技術士会防災会議／戸村政雄
北海道支部の活動「地震防災から都市型防災への変遷」／松井義孝
阪神・淡路大震災の経験を活かす／福岡悟

九州支部災害・技術支援委員会の発足／清水博和
防災の主要キーワード／三船康道・大元守

- ・ノーベル化学賞と化学技術者／湖上国雄
- ・先端複合技術研究会（技術交流会）の発展に向けて／高島昭三

編集後記

去る3月13日に、14年度技術士第二次試験の合格者が発表されました。福岡受験の総合技術監理部門以外の19部門406名、総合技術監理部門282名。13年4月の技術士法改正に伴って認められていた2年間の経過措置最後の試験に合格された、新進気鋭の方々です。ここからお慶びを申しあげます。とともに新しい時代の技術士として思う存分のご活躍をお祈りいたします。また併せて、ぜひ日本技術士会にご入会くださいますようお願いいたします。

また15年度から第二次試験は、第一次試験に合格していないと受験出来なくなりました。受験申し込みは15年4月1日から4月11日まで。総合技術監理部門志願の場合にはすでに今年度の第一次試験に合格した技術士の方も沢山おいでですが、受験のみなさまのご成功をお祈りいたします。（完戸）

発行：(株)日本技術士会九州支部

九州技術士センター

〒812-0012 福岡市博多区博多駅中央街7-1

（シック博多駅前ビル204）

九州支部： ☎(092)432-4441

FAX(092)432-4442

E-mail：engineer@joho-fukuoka.or.jp

九州支部ホームページ URL：

http://www.joho-fukuoka.or.jp/kigyo/engineer

センター： ☎ / FAX(092)432-4443

印刷：(株)川島弘文社